



2026年3月期 半期連結決算 補足説明資料

証券コード 4667

2025年11月12日

アイサンテクノロジー株式会社



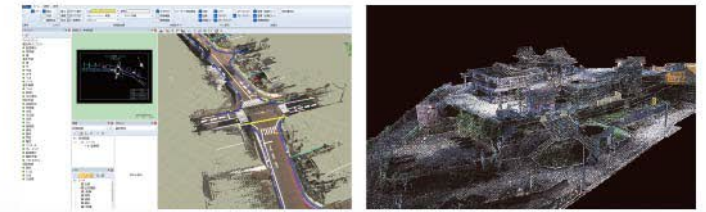
未来の社会インフラを創造する

To Advance Society

街、都市、国土。人々が生活するうえで欠かすことのできない社会インフラ。それらの整備は「測る」ことから始まります。
アイサンテクノロジーは、時代の最先端システムを融合したソリューションテクノロジーのアップデートをもって
「測る」を支え、未来の社会インフラの創造に貢献します。

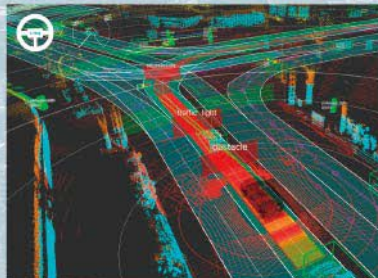
ANIST

WingEarth



Aisan's Mission
高精度地理空間情報プラットフォーム

Society 5.0



WingNeo
INFINITY



AISAN
TECHNOLOGY CO., LTD.



Ⅰ 2026年3月期 半期
決算概況

Ⅰ 2026年3月期 半期
トピックス

Ⅰ ご案内



■ 公共セグメント



【測量】ソフトの開発・販売

対象顧客: 土地家屋調査士、測量士、建設コンサルタント

土地や建物等の正確なデータ取得・解析・図面作成を支援するソフトウェアの開発・販売を行っています。

相続を含む不動産取引、建築設計、インフラ整備、災害発生時の状況把握や復旧作業など多岐にわたり、公共事業に不可欠なツールとして活用されています。



【測量】ハードの販売・支援

測量の現場において、土地や建物の位置・高さ・距離などを正確に測定するために必要な測量機器の仕入・販売を行い、業務効率化や正確な計測作業を支援しています。



お客様サポートサービス

当社製品をご利用のお客様に対し、不具合対応や最新バージョンへのアップデート、各種お問い合わせ対応などを行う有料サポートサービスを提供しています。

自社ソフトウェアだけでなく、測量機器も扱うことに
加えて、導入後のサポート体制を充実。
お客様の業務をワンストップでサポート可能。

■ モビリティ・DXセグメント



【自動運転】ソリューション

対象顧客: 全国の自治体、バス会社、自動車メーカーなど、幅広いお客様

自動運転の計画コンサルティング、お客様のニーズに合わせた車両の自動運転化、自動運転に必要なとなる地図データの生成・販売、MMS(移動しながら高精度なデータを取得する車両搭載型システム)の運用・販売など、さまざまなソリューションの提供を行っています。

長野県塩尻市での運転席にドライバーを設置しない「レベル4」での自動運転の実現など、豊富な経験と高い技術力で自動運転の社会実装を推進しています。



【都市空間DX】ソリューション

自治体ごとに分散管理されている都市インフラデータ(ガス管や水道管など)を、三次元位置情報として統合・可視化し、効率的かつ安全な都市計画・インフラ管理を実現します。

今後は、交通やインフラのDX分野、まちづくり領域でソリューションを展開し、国・自治体のDX推進に貢献することで、持続的な成長を目指します。

自動運転に関わる、すべての業務を
ワンストップで提供可能。
これまで培った技術力で未来の社会インフラを創造。

報告セグメント及び各サービスに含まれる主要な製品等



2025 AISAN TECHNOLOGY

公共セグメント

【主要な市場】 測量・不動産市場

モビリティ・DXセグメント

【主要な市場】 自動車関連、MaaS関連市場

収益区分		製品・サービス
自社ソフトウェア販売及び 関連サービス	測量土木関連ソフトウェア(「Wingneo INFINITY」等) 三次元点群処理ソフトウェア(「WingEarth」「ANIST」等) 及び関連保守サービス等	
計測機器販売及び 関連サービス	測量計測機器販売 及び関連保守サービス等	MMS計測機器及び関連製品・サービス 自動運転車両に係るハードウェア販売等
各種請負業務及び 関連サービス	土地・河川・海洋に関する各種測量業務 三次元計測・解析業務の請負等	三次元計測・解析業務 高精度三次元地図データベース構築業務 自動運転車両・システム構築 自動運転の実証実験請負等
その他	その他関連ハードウェア・サービス	

※ 「その他」のセグメント区分は報告セグメントに含まれず、不動産賃貸業を営んでおります。

※ 各収益区分におけるサービスモデルの詳細については[当社HP](#)をご覧ください。

2026年3月期 半期 業績ハイライト

(単位:千円)

	2026年3月期 中間期 (2025.4.1~2025.9.30)	2025年3月期 中間期 (2024.4.1~2024.9.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	3,110,885	2,422,655	688,229	28.4%
営業利益	206,677	67,027	139,650	208.3%
親会社に帰属する 当中間純利益	177,326	47,883	129,442	270.3%

2026年3月期 半期 業績ハイライト

- 公共セグメントにおいて、昨年度リリースした新製品「ANIST」の販売が引き続き好調を維持。さらにスポットで官公庁による大型入札案件の売上も発生。これにより、売上および営業利益が大きく伸長し、全社の業績を牽引。
- モビリティ・DXセグメントにおいては、MMS機器販売に加え、高精度三次元地図作成請負業務、自動運転サービス実用化に向けた実証実験の請負業務、自動運転車両の構築請負業務、測量業務の受託など、多方面での受注を獲得しており、前年同期を上回る受注状況を達成。なお、収益計上が年度末に集中する傾向は継続しており、第4四半期に大きく売上が伸長する見込み。
- 以上の成果を受けて、前年同期と比較して著しく成長。当中間連結累計期間では、当初計画していた営業損失見込を上回り、大幅な黒字を達成。期末に向けた受注状況も順調に推移しており、通期での計画目標達成に向けて着実に進展。

セグメント別決算概況



2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)

公共セグメント	2026年3月期 中間期 (2025.4.1~2025.9.30)	2025年3月期 中間期 (2024.4.1~2024.9.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	1,846,692	1,365,734	480,957	35.2%
セグメント利益	479,783	264,929	212,676	81.1%

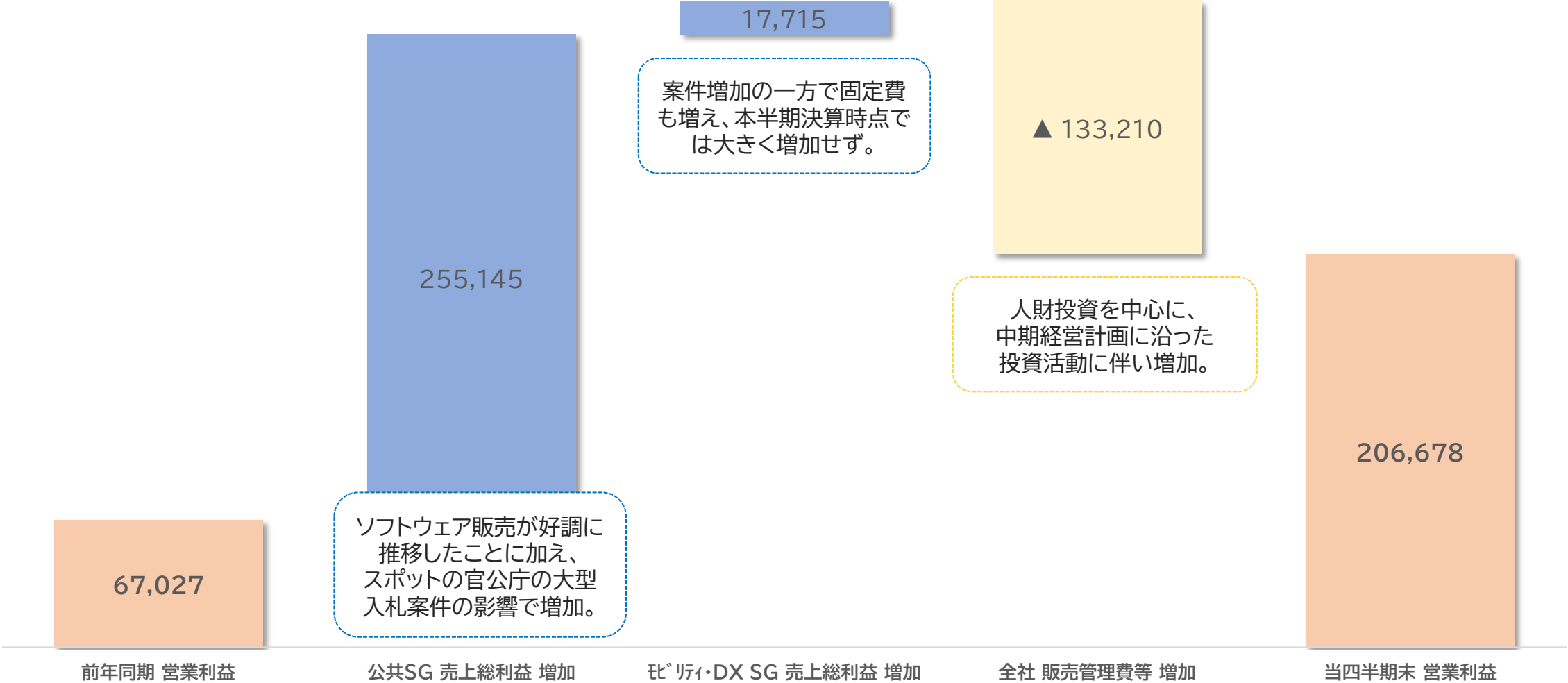
セグメント利益は前年比大幅増を達成し、大きな黒字を計上。自社ソフトウェア販売が業績を力強く牽引。
前年度課題であったグループ会社在庫は好調な販売により解消が進展。

モビリティ・DX セグメント	2026年3月期 中間期 (2025.4.1~2025.9.30)	2025年3月期 中間期 (2024.4.1~2024.9.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	1,259,330	1,051,338	207,991	19.8%
セグメント利益	▲95,386	▲24,875	▲71,566	—

セグメント利益に関しては、収益計上が年度末に集中するため、年度末には黒字化し、計画を達成する見込み。

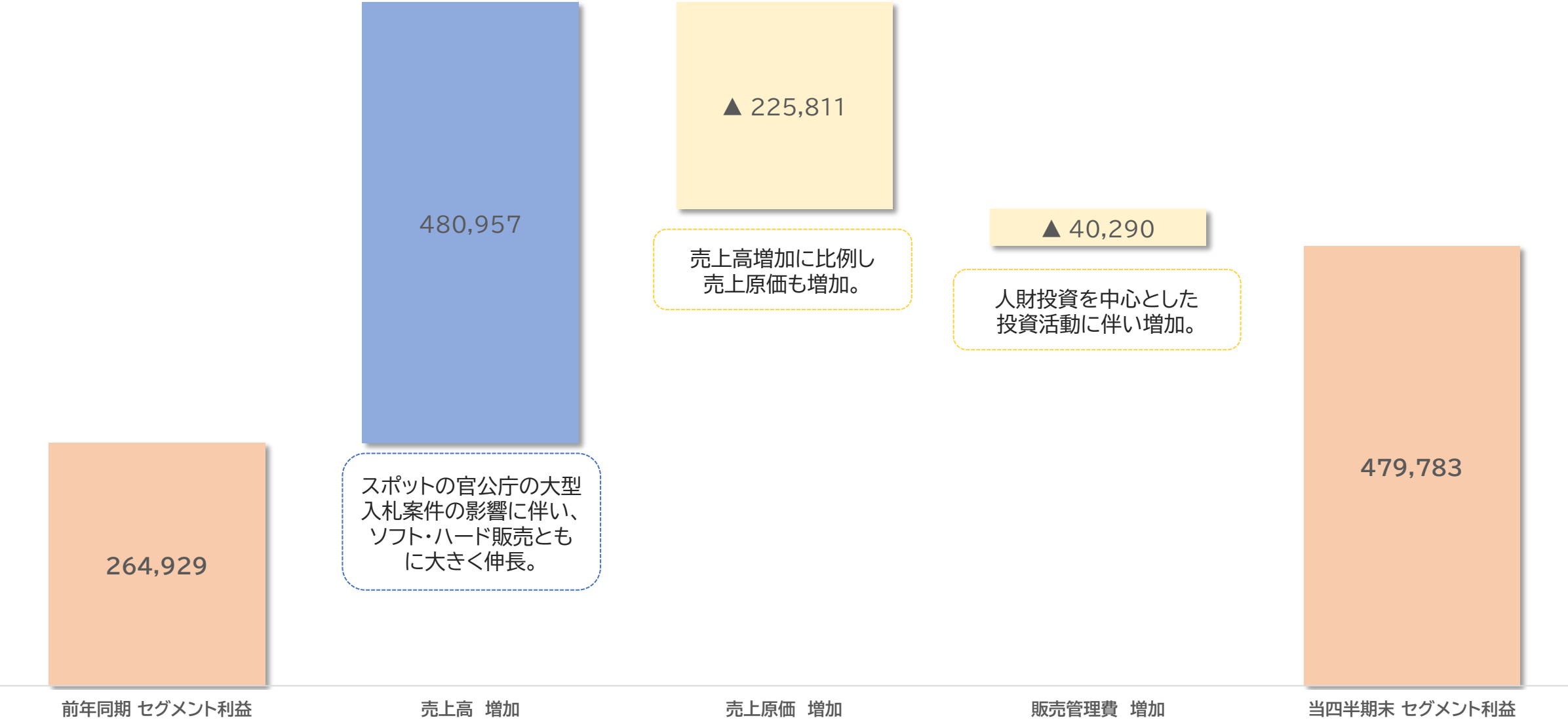
営業利益 対前年同期比増減分析

(単位:千円)



公共セグメント セグメント利益増減分析

(単位:千円)



モビリティ・DXセグメント セグメント利益増減分析

(単位:千円)



前年同期 セグメント利益

売上高 増加

売上原価 増加

販売管理費 増加

当四半期末 セグメント利益

2026年3月期 通期達成目標および進捗報告

2025 AISAN TECHNOLOGY

通期
目標

① 売上高

72億円

- ・ 基盤となる公共セグメントでは、持続的に安定した成長を目指す。
- ・ モビリティ・DXセグメントは国や市場の動向と連動し、飛躍につながる重要期間として事業展開を行う。
- ・ 以上より、前年比15.7%増となる売上高72億円を計画。

2Q
進捗

31億円

- ・ 通期目標に対し、43%の達成状況。
- ・ 基盤となる公共セグメントの安定的な売上に加え、成長領域であるモビリティ・DXセグメントにおいても、市場動向に合わせた事業展開が寄与し、着実な進捗。
- ・ 前年同期(24.2億円)と比較すると、28%の増収となる。

② 営業利益

6億円

- ・ 2027年3月期に、当社グループ過去最高となる営業利益8億円を目指す。
- ・ 当事業年度においては、上記計画を達成すべく、様々な先行投資を行う。
- ・ 以上より、前年比33.5%増となる営業利益6億円を計画。

2億円

- ・ 通期目標に対し、33%の達成状況。
- ・ 当初は損失を見込むも、堅調な売上高および収益獲得により第2四半期で2億円の営業利益を達成。
- ・ 第3四半期以降についても、計画通り事業活動することで通期目標の営業利益6億円達成を目指す。

③ 売上高営業利益率

8.3%

- ・ 左記①・②より、昨年度より売上高、営業利益ともに上回る計画から、売上高営業利益率については前年比約1.1ポイント増となる8.3%を計画。
- ・ 2027年3月期には10%を達成するため、前事業年度より引き続き、その基盤となる製品・人財・事業に向けた投資を実施。

6.5%

- ・ 前年同期(2.7%)と比較し、大幅改善。
- ・ 売上高の増加に加え、収益構造の改善や効率的な事業運営の成果が明確に表れたものと評価。
- ・ 請負契約の受注も順調に進んでいることから、通期目標を達成する見込み。

当連結会計年度の業績予想に対する進捗(全社)



2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)

	2026年3月期 累計実績 (2025.4.1~2025.9.30)	2026年3月期 通期業績予想	通期業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 累計実績 (2024.4.1~2024.9.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	3,110,885	7,200,000	43.2%	2,422,655	6,220,625	38.9%
営業利益	206,677	600,000	34.4%	67,027	449,401	14.9%
経常利益	207,296	580,000	35.7%	67,401	445,048	15.1%
親会社に 帰属する 中間純利益	177,326	382,000	46.4%	47,883	286,207	16.7%

進捗状況

当初の中間損失計画に対し、想定以上の収益を確保し黒字を達成。第3四半期以降の業績が現時点では不確定要素も多いため、この時点での通期業績目標の変更は不要と判断。期末に向け着実に目標達成に取り組んでいく。

当連結会計年度の業績予想に対する進捗(セグメント別)



(単位:千円)

2025 AISAN TECHNOLOGY

公共セグメント	2026年3月期 累計実績 (2025.4.1~2025.9.30)	2026年3月期 通期業績予想	通期業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 累計実績 (2024.4.1~2024.9.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	1,846,692	3,218,000	57.4%	1,365,734	2,557,286	53.4%
営業利益	477,605	428,000	111.6%	264,929	352,928	75.1%
売上高 営業利益率	25.9%	13.3%	—	19.4%	13.8%	—

進捗状況 通期業績予想に対し、大幅に好調な進捗。前年7月にリリースの「ANIST」など自社ソフトウェア製品の売上が収益拡大に寄与。

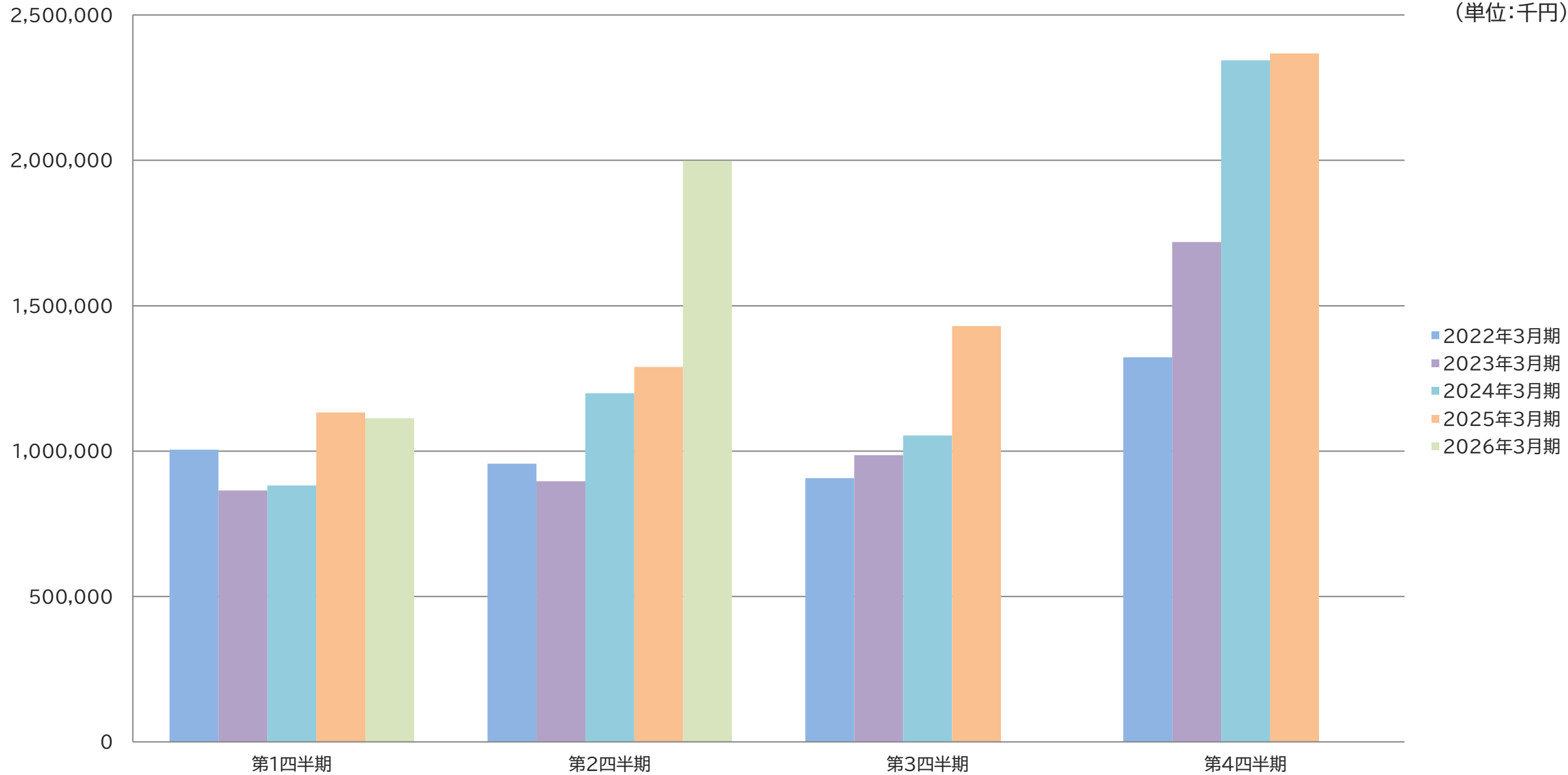
モビリティ・DX セグメント	2026年3月期 累計実績 (2025.4.1~2025.9.30)	2026年3月期 通期業績予想	通期業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 累計実績 (2024.4.1~2024.9.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	1,259,330	3,972,000	31.7%	1,051,338	3,652,144	28.8%
営業損失	▲96,441	379,000	—	▲24,875	440,863	—
売上高 営業利益率	—	9.5%	—	—	12.0%	—

進捗状況 売上について前年同期より進捗しているものの、累計で営業損失を計上。一方で多数案件受注しており、通期では黒字化見込み。

四半期会計期間 売上高推移(5期比較)

2025 AISAN TECHNOLOGY

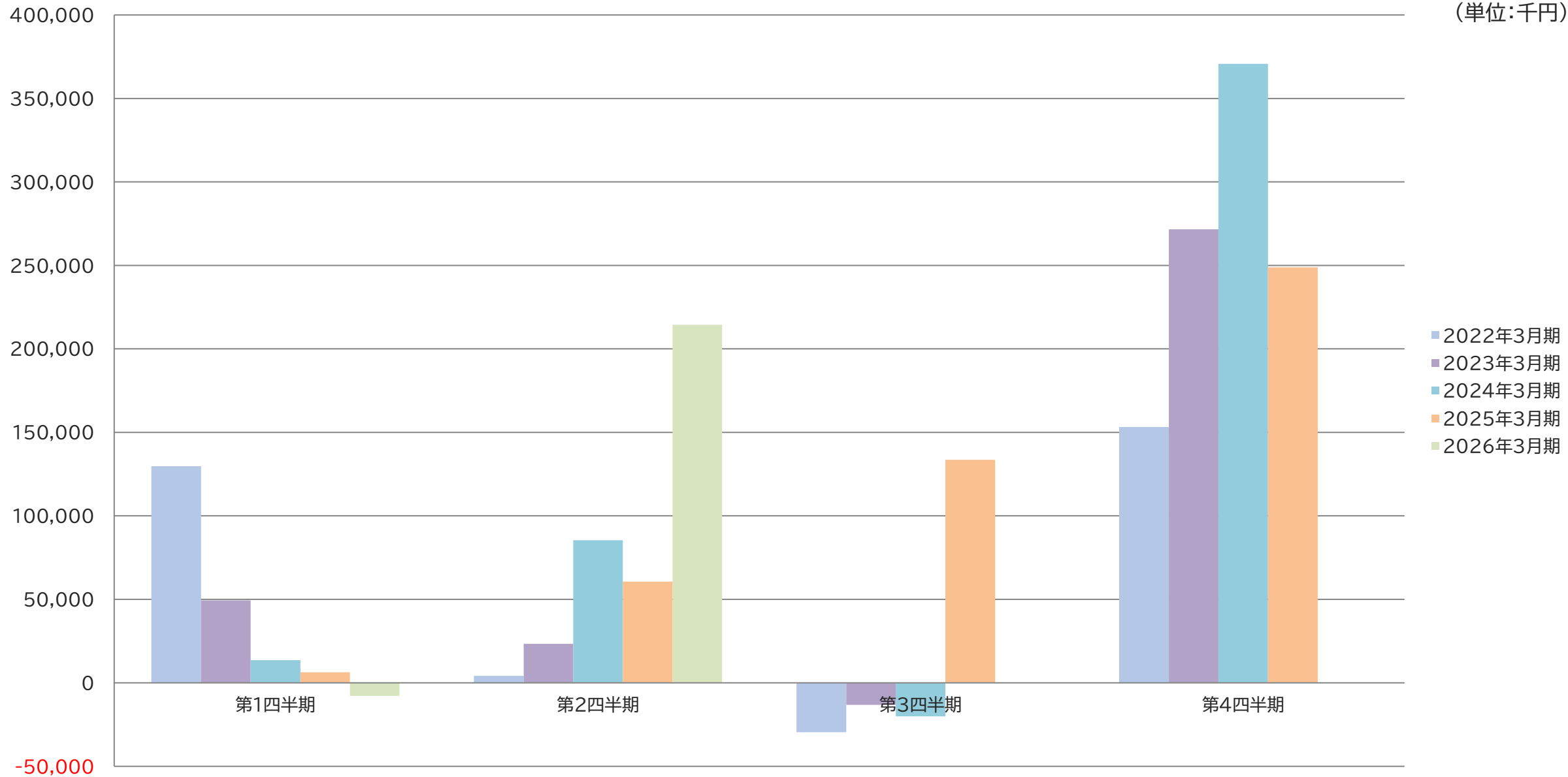
(単位:千円)



四半期会計期間 営業利益推移(5期比較)

2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)

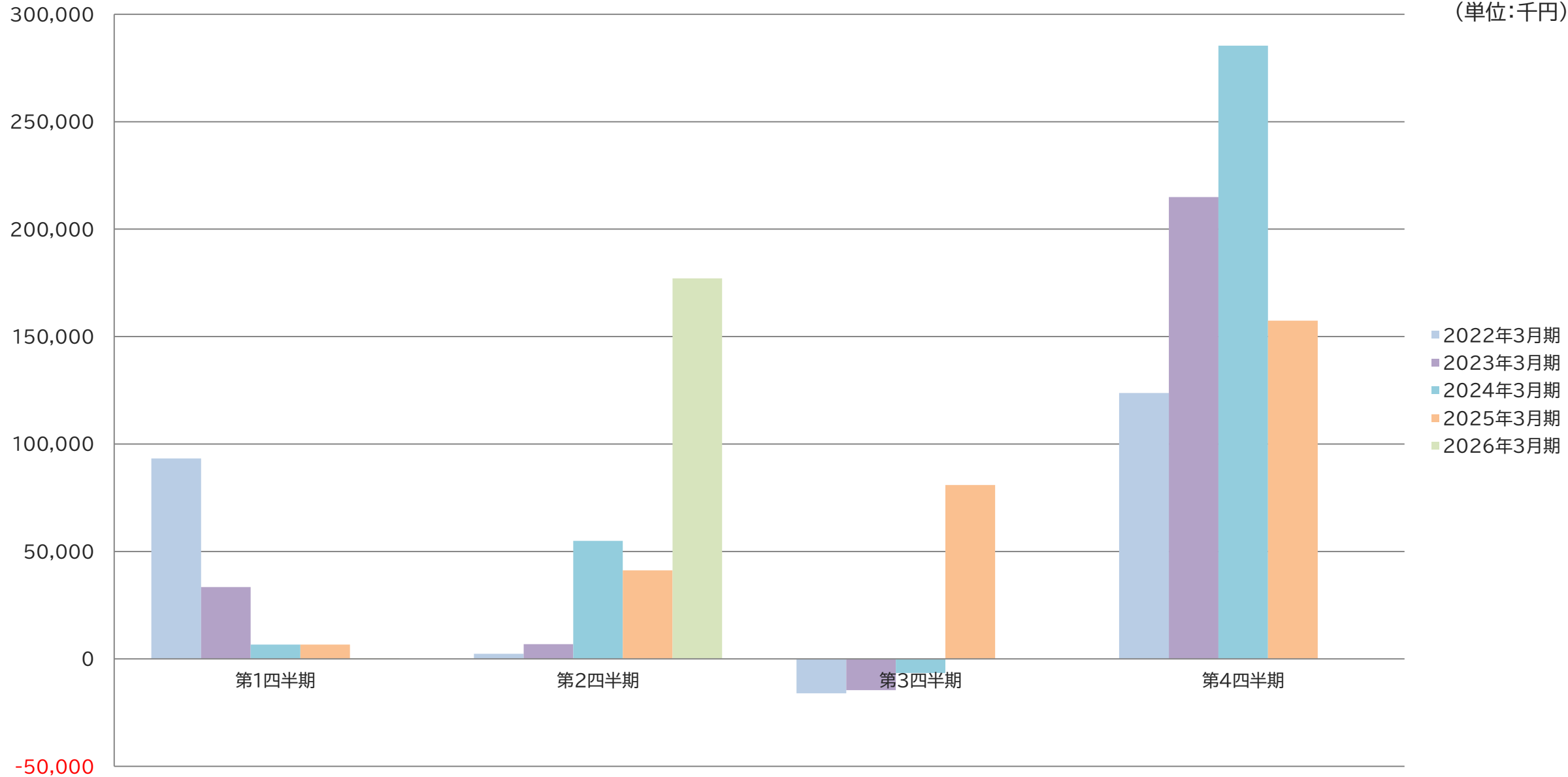


四半期会計期間 親会社株主に帰属する当期純利益推移(5期比較)



2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)



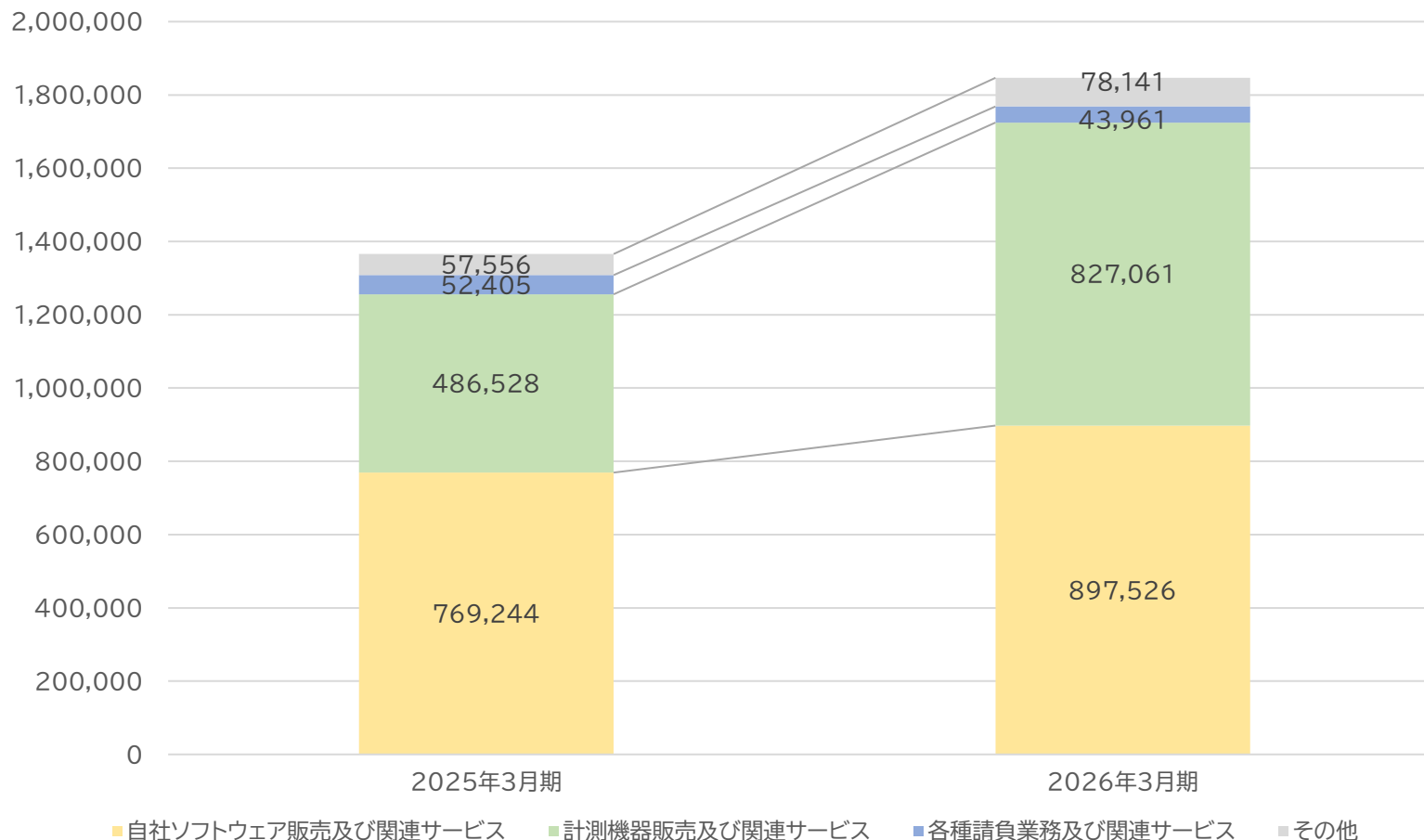
公共セグメント 収益サービス別売上実績推移

2025 AISAN TECHNOLOGY



(単位:千円)

セグメント別サービス別売上実績推移
(公共セグメント 連結半期累計期間実績)



自社ソフトウェア販売及び関連サービス

前年同期比 約16.7%増。

新製品「ANIST」の売上が好調に推移したことで、安定した増収を達成しており、公共セグメントの基盤を支える重要な収益源となっている。

計測機器販売及び関連サービス

前年同期比 約70.0%増。

測量機器販売に加え、測量機器のリユース・リペア・レンタルの3Rサービスが好調に推移。公共セグメント全体の売上成長を最も力強く牽引。

請負業務及び関連サービス

前年同期比 約16.1%減。

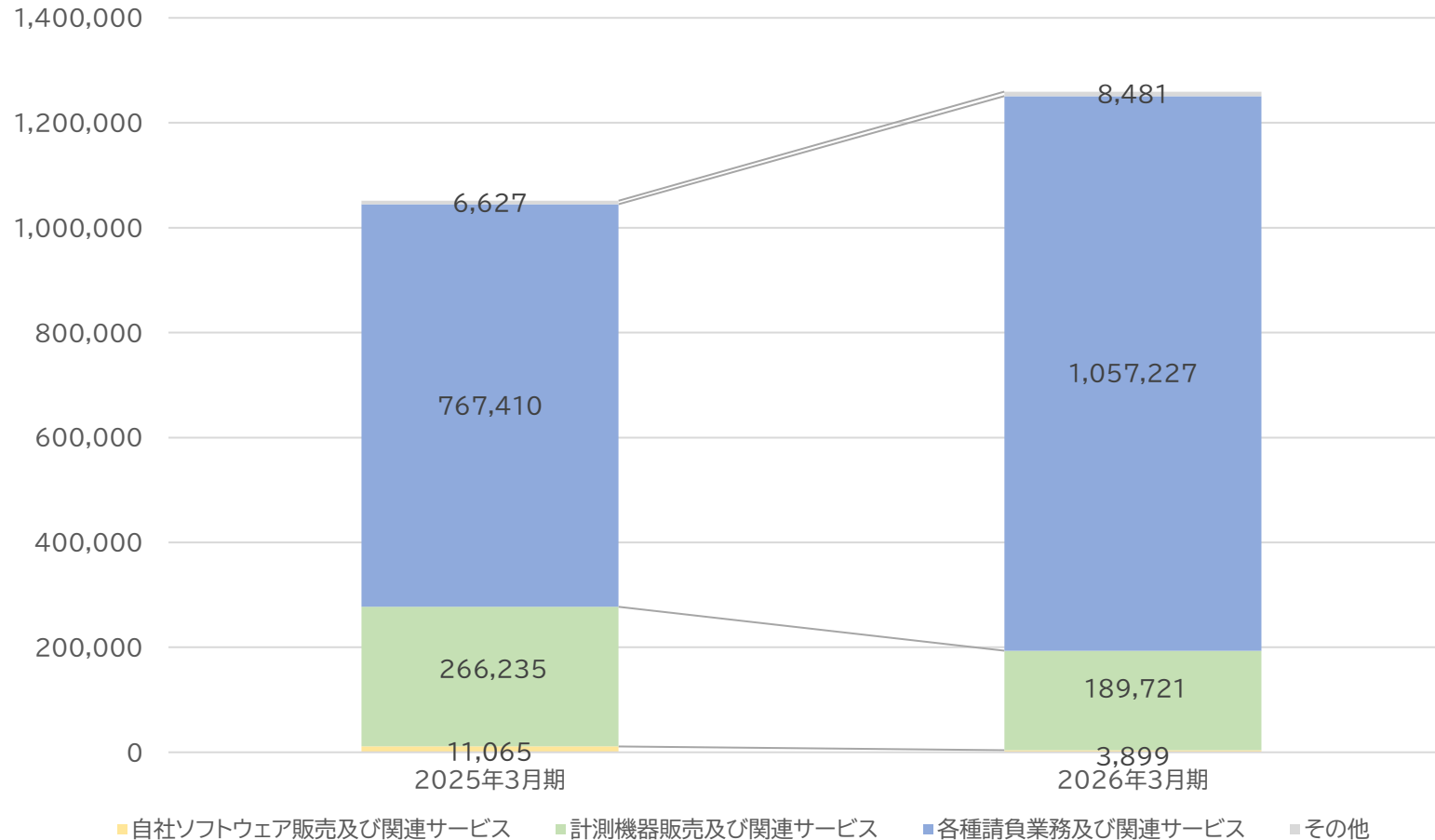
子会社である株式会社三和による測量請負業務が中心。当第2四半期連結累計期間において、納品が完了した案件数が減少したため、前年同期と比較し、売上高は下回る結果となる。

モビリティ・DXセグメント 収益サービス別売上実績推移

2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)

セグメント別サービス別売上実績推移
(モビリティ・DXセグメント 連結半期累計期間実績)



計測機器販売及び関連サービス

前年同期比 約28.7%減。

前期に複数台のMMS機器の納品が完了した反動で、前年同期と比較し売上高が減少。MMS機器は高額であり、今回の売上減は、事業構造そのものの問題や市場需要の著しい低下を示すものではなく、大型案件の納品サイクルによる一過性の変動。

請負業務及び関連サービス

前年同期比 約37.8%増。

大幅な増加を記録し、モビリティ・DXセグメントの売上成長を牽引。収益計上は年度末に集中する傾向が強く、自動運転実用化に向けた自治体や交通事業者との連携活性化に伴い受注が順調に進んでいることから、年度末には前年度の売上高をさらに上回る見通し。

(単位:千円)

請負契約に係る受注残高(連結半期累計期間末時点)

	公共セグメント			モビリティ・DXセグメント			合計		
	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)
計測機器販売及び 関連サービス	—	—	—	46,832	57,780	123.4%	46,832	57,780	123.4%
各種請負業務及び 関連サービス	103,571	52,846	51.0%	1,041,461	1,341,621	128.8%	1,145,032	1,394,467	121.8%
合計	103,571	52,846	51.0%	1,088,292	1,399,401	128.6%	1,191,864	1,452,248	121.8%

- 前年同期比で21.8%増加。
- 当資料は、各取引先と請負契約を交わした案件のうち、翌四半期以降に売上計上を想定している受注残高を記載。
このため、商談が進んでいても、未契約の案件は当資料に算入していない。
- MMSを用いた三次元計測・解析業務の請負、各種測量業務、三次元計測・解析業務の請負、
高精度三次元地図データベース構築業務請負、自動運転システム構築、自動運転の実証実験請負業務等の受注残高を記載。

(単位:千円)

連結貸借対照表

資産の部

負債・純資産の部

流動資産	6,764,843	負債合計	2,609,364
固定資産	2,112,036	純資産合計	6,267,516
資産合計	8,876,880	負債・純資産合計	8,876,880

- 資産のうち、仕掛品が前連結会計年度末と比較し、大幅に増加している要因について
当社グループが手掛ける請負契約案件については、案件が増加している点に加え、その案件の多くが年度末に計上されることから、期中には仕掛品が増加する傾向にあるもの。
- 負債のうち、買掛金が前連結会計年度末と比較し、大幅に増加している要因について
上記の仕掛品増加に伴うプロジェクト遂行のため、仕入が活発化したことに起因。単なる負債増ではなく、今後の事業展開および収益化に不可欠となるもの。

(単位:千円)

連結損益計算書

売上高	3,110,885
売上原価	1,851,809
売上総利益	1,259,075
販売費及び一般管理費	1,052,397
営業利益	206,677
経常利益	207,296
親会社株主に帰属する中間純利益	177,326

● 前年同期と比較し、増収増益となった要因について

請負契約案件の拡充とプロジェクトの順調な進捗により売上高が大幅に増加。加えて、粗利率の高い自社ソフトウェア販売の好調と経営効率の改善が、営業利益の飛躍的な増加に寄与。

● 特別利益について

当中間連結会計期間においては、戦略的な株式ポートフォリオの見直しの一環として保有株式の売却を進めた結果、投資有価証券売却益を計上し、特別利益が発生。

計 連結キャッシュ・フロー
算 書

キャッシュ・フロー内訳

営業活動によるキャッシュ・フロー	▲68,825
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲165,455
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲201,449

現金及び同等物 総括

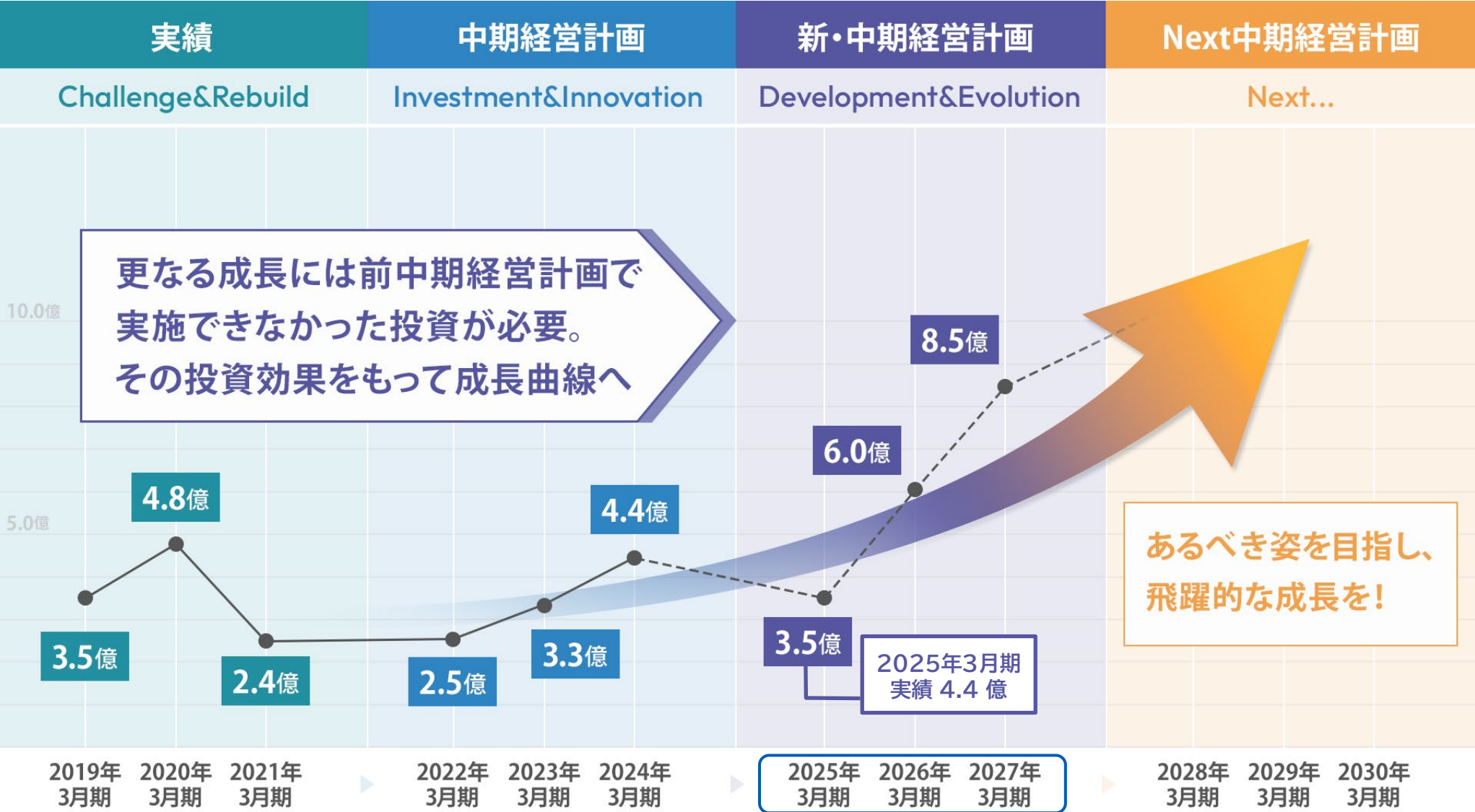
現金及び現金同等物の増減額	▲435,730
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,740,271

● キャッシュ・フローの増減について

増収増益にもかかわらず現預金残高は減少。営業活動では、棚卸資産・売上債権増加による資金流出が仕入債務増加による資金流入を上回る運転資本の変動に加え、前受金減少等でマイナスの結果。投資活動では、投資有価証券取得や無形固定資産取得等に積極投資。財務活動では、配当金支払や債務返済が主な資金流出源。このキャッシュ減少は、将来の事業拡大と持続的な企業価値向上に向けた積極的な経営判断の結果。今後も効率的なキャッシュマネジメントと成長戦略を着実に推進し、企業価値向上に努める。

中期経営計画および当連結会計年度 営業利益進捗計画

2025 AISAN TECHNOLOGY



当社グループが定めている経営方針・経営戦略等につきましては、2024年5月10日に開示した中期経営計画から重要な変更はありません。

中期経営計画2年目について

- ◆中期経営計画最終年度の2027年3月期における経営計画売上高80億円、営業利益8.5億円の達成の土壌形成
- ◆初年度に計画未達分も含む人財の確保と育成
- ◆次の自社製品リリースと継続的な研究開発
- ◆自動運転の社会実装に向けパートナーの皆様と連携し実証実験を行うとともに実用化時代のサービスモデルの開発
- ◆IRイベントなどへ積極的に参加し、個人投資家の皆様との接点をさらに増やし、企業価値向上に努める

中期経営計画最終年度(2027年3月期)における売上高80億円、営業利益8.5億円など下記KPIの達成を目指し、新卒及びキャリア採用を含む人財確保、資産、研究開発への投資を積極的に実施してまいります。

公共セグメントにおいては、製品企画・開発の強化、製品及びサービスの迅速かつ継続的な提供を行い、グループ会社とも連携して収益に貢献してまいります。

モビリティ・DXセグメントでは、新たなDX事業への参画に向けた取り組みを加速し、各分野での人材育成・研究開発の実施、自治体やパートナー企業との連携強化を通じて将来の収益性の向上を図ってまいります。

中期経営計画の詳細につきましては、当社WEBサイトをご覧ください。 <https://aisan-corp.com/ir/management/vision/>

中期経営計画におけるKPI

売上高

80億円

売上高営業利益率

10%

1株当たり配当金

35円

連結従業員数

235名

営業利益

8.5億円

ROE

8.0%

連結配当性向

35%

男性育児休暇取得

100%

M&A実施企業の決算概況



2025 AISAN TECHNOLOGY

株式会社 三和

(単位:千円)

	2026年3月期 中間期 (2025.4.1~2025.9.30)	2025年3月期 中間期 (2024.4.1~2024.9.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	48,726	57,035	▲8,308	▲14.6%
営業損失	▲12,399	▲9,392	▲3,007	—
当中間純損益	▲9,054	▲6,615	▲2,439	—

有限会社 秋測

(単位:千円)

	2026年3月期 中間期 (2025.4.1~2025.9.30)	2025年3月期 中間期 (2024.4.1~2024.9.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	199,543	151,682	47,860	31.5%
営業利益	14,971	6,627	8,343	125.8%
当中間純利益	9,240	4,096	5,143	125.5%



Ⅰ 2026年3月期 半期
決算概況

Ⅰ 2026年3月期 半期
トピックス

Ⅰ ご案内



トピックス記事のIRサイト掲載について

本資料では、当社の事業活動へのご理解を深めていただくため、トピックス記事を掲載しております。さらに、このたび、IRサイトにプレスリリースや最新のお知らせを時系列で閲覧できる新たなページを開設いたしました。ぜひ併せてご活用ください。

IRトピックスページはこちら:<https://aisan-corp.com/topics>

トピックス一覧

すべて	事業・プロジェクト	経営・サステナビリティ	お知らせ
-----	-----------	-------------	------



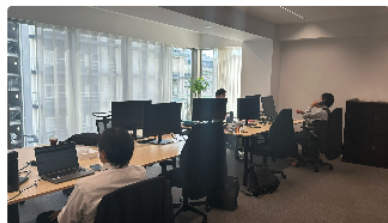
事業・プロジェクト 2025.10.24

点群データを活用した高精度 3 次元モデルを全国の自動車専用道 33,000 km に対して提供開始



事業・プロジェクト 2025.10.22

国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」における 17 地域への参画決定のお知らせ



お知らせ 経営・サステナビリティ 2025.10.1

「大阪営業所」開設のお知らせ



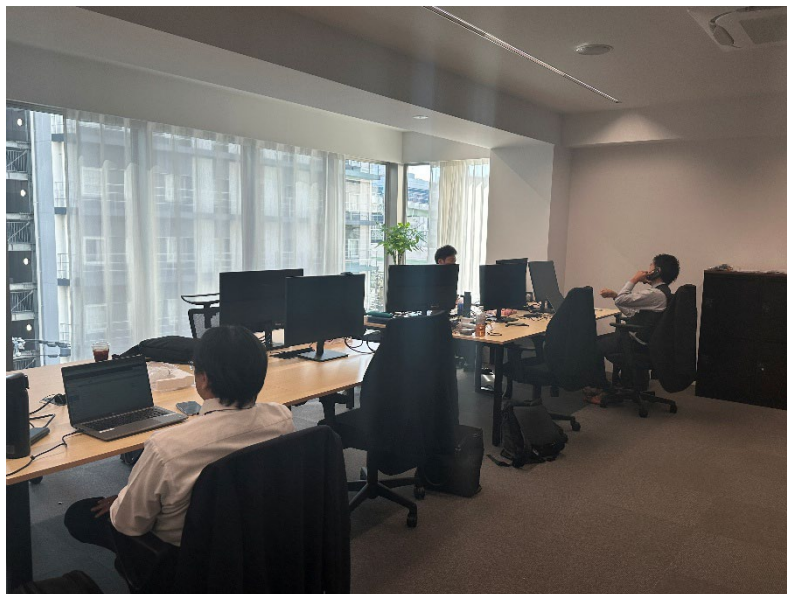
お知らせ 経営・サステナビリティ 2025.9.30

株式会社マップフォーへの出資と業務提携について

新技術の開発や製品リリースに関する情報や、展示会出展やセミナー開催のお知らせ、CSR・地域貢献活動についての内容を、画像を交えて分かりやすくご紹介いたします。

本資料では、IRサイトのトピックスページをダイジェスト形式で紹介いたします。IRサイトでは、より詳細な記事をご覧ください。リンクも掲載しておりますので、ぜひIRサイトもご覧ください。

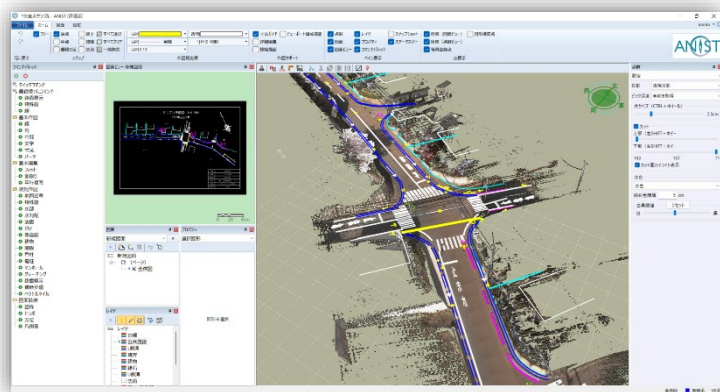
◆ 10月1日に大阪営業所を開設いたしました



当社は、地域に密着した営業体制の構築を目的として、10月1日(水)に、大阪市に「大阪営業所」を開設しました。これまで兵庫県西宮市に拠点を置く関西営業所が、関西エリアと中四国エリアの一部を担当していました。このエリアは、広域にわたり1,300を超えるユーザーを擁しており、当社公共ビジネスグループの売上の約15%を占める、首都圏に次ぐ重要な市場です。

このような状況を踏まえ、大阪営業所を新設し、関西営業所が兵庫以西、大阪営業所が大阪以东を担当する体制に再編しました。これにより、地域により密着した営業活動が可能となり、迅速かつきめ細やかなサービス提供を実現します。

大阪営業所の開設により、直販市場はもとより販売店や協力会社との連携を一層強化し、地域に密着した営業活動を展開しながら、さらなる事業拡大に向けて取り組んでまいります。



◆ 最新バージョンリリースについて

当社では、自社製品ソフトウェアの機能追加やアップデートなどを通してお客様の業務効率化に貢献しております。9月に下記2商品について、新バージョンをリリースいたしました。

- ・「WingEarth Version2.8.0」
- ・「ANIST Version1.3.0」

今後お客様の要望なども反映させながら、継続的にバージョンアップを行ってまいります。

◆ 「ANIST」販売実績について

「ANIST」は、点群データから図面・図形作成までを1つのアプリで完結できるCADシステムです。昨年夏のリリース以降、販売状況は好調に推移しています。

業界初の「ボード点群テクノロジー」(*)を搭載し、点群から図面作成にかかる時間を大幅に短縮できる点などが高く評価されています。ソフトウェア単体での販売に加え、ハンディ型の3Dスキャナとのセット販売も受注が増加しており、幅広い現場ニーズに対応しています。

全国各地で体験会を開催し、参加者からは「想像以上に使いやすい」「導入後すぐに業務に活かそう」など、ポジティブなご意見を多数頂戴しています。

今後も展示会への出展や体験会の継続開催などを通じて営業機会を増やし、さらなる売上拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

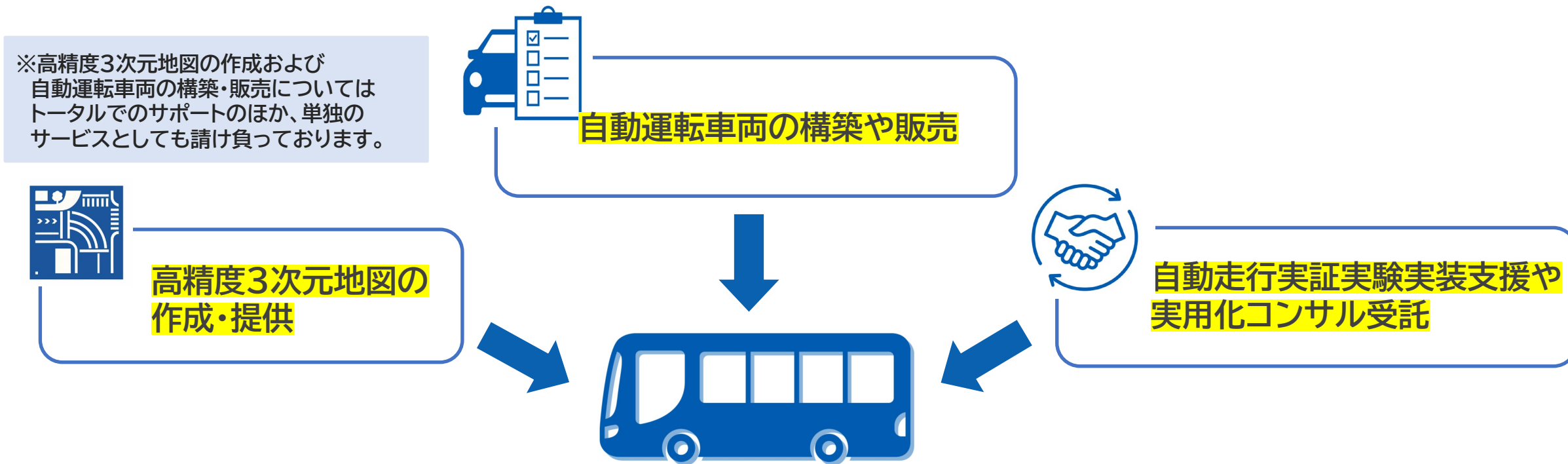
※「ボード点群テクノロジー」とは:ANISTに搭載された点群描画エンジンで、点群を球体として表現し、その大きさを自在に変えることで、点の隙間を埋めて視認性を大幅に向上させる技術です。なお、この技術は現在特許出願中です。



首都圏で行われた体験会の様子

モビリティ分野における当社グループの役割について

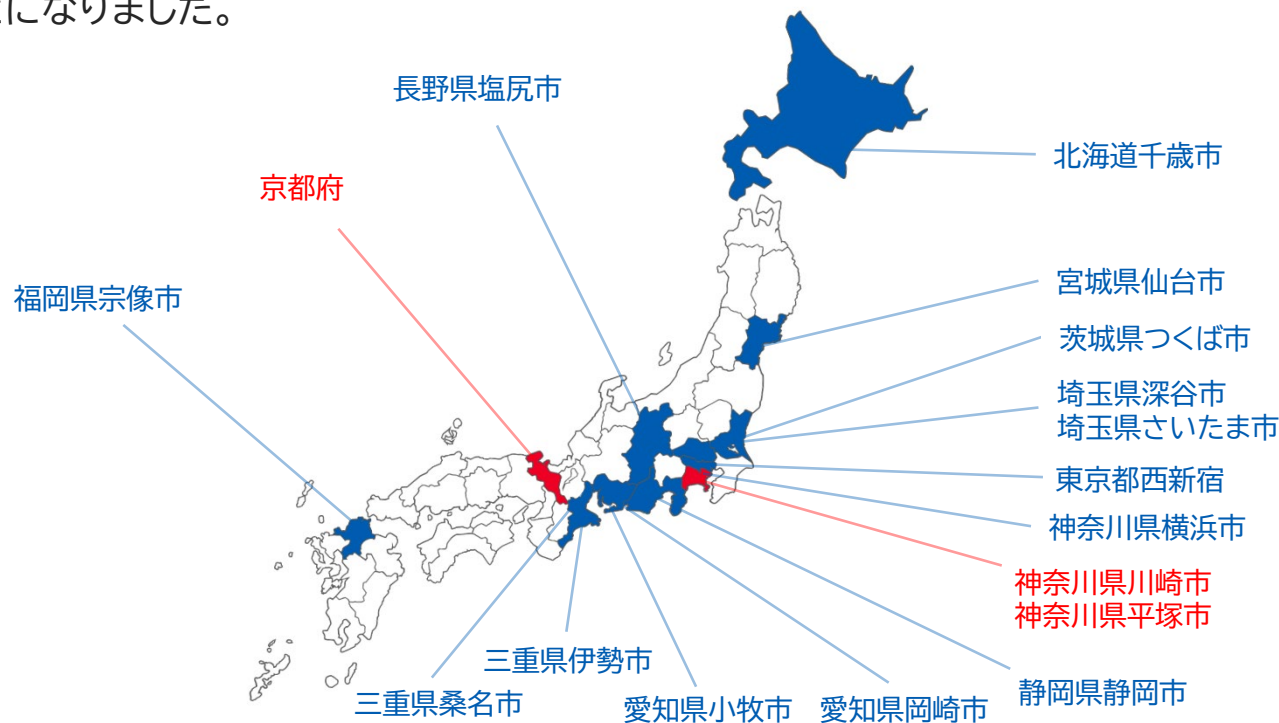
当社は、測量技術を基盤に培った「三次元データ活用力」を活かし、自動運転技術の研究開発から車両の開発、全国での実証実験支援まで、自動運転ソリューションをワンストップで提供しております。



自動運転実証実験サービスでは、実験計画の立案からリスク評価、地図作成、車両手配、走行サポート、報告書作成まで、ワンストップで支援しています。国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業)」で採択された案件を始め、総務省やデジタル庁の採択案件、自治体独自予算による案件など、多様なプロジェクトを受注し、必要なソリューションを提供しています。

◆ 国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」における17地域への参画決定のお知らせ

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社は、国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」において採択された地方公共団体が実施する全国67の事業のうち、重点支援自治体3地域、一般支援自治体14地域の合計17地域において、本年度も参画していくことになりました。



■: 重点支援自治体

■: 一般支援自治体

『重点支援事業』は、地域公共交通の先駆的・優良事例として他地域へ横展開が可能な事業で、一般支援事業に比べて手厚い支援措置が講じられます。一方、『一般支援事業』は、重点支援事業に該当しないものの、早期のレベル4自動運転実装が見込まれる事業を対象としています。

本年度は、地域の公共交通における課題に対応し、将来的なレベル4自動運転の実現と持続可能な移動サービス構築を目的とした取り組みとなります。昨年度までの知見を活かし、調査から実証運行、大型バスでの社会実装に至るまで、多様な形態で支援・参画いたします。本件に加えて、自治体の独自予算や内閣府の第2世代交付金を活用した全国各地での自動運転実証事業にも積極的に参画してまいります。

詳細はこちら: <https://aisan-corp.com/topics/20251022>

◆「KAWASAKI L4 Bus Project」自動運転バス実証に参画



(左)ティアフォー製「Minibus」
(右)いすゞ大型バス「エルガ」

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社は、川崎市が推進する「KAWASAKI L4 Bus Project」に参画しています。本プロジェクトは、令和9年度における自動運転バス・レベル4の実装を目指し、段階的に実証実験を進める取り組みです。

今年度は、中型バス「Minibus2.0」に加え、いすゞ自動車製の国産大型バス「ERGA(エルガ)」を導入し、計2台体制でレベル2の実証運行を実施します。

詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/20250901>

◆さいたま市 令和7年度自動運転バス実証実験への参画

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社は、さいたま市と連携し、令和7年度に自動運転バスの実証実験を実施します。本実証は「さいたま市レベル4モビリティ・地域コミッティ」の構成員として、地域課題の解決や将来の移動サービスのあり方を検討する取り組みです。詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/20250916>

◆黒部ダム駅・扇沢駅間の電気バス自動運転化実証の実施

当社は、関西電力株式会社、株式会社ティアフォー、大成建設株式会社、大成ロテック株式会社とともに、2025年9月16日から19日の4日間、黒部ダム駅(富山県中新川郡立山町)から扇沢駅(長野県大町市)間で、電気バスによる「自動運転レベル2」の走行実証を実施しました。本実証は今後、現在運行している電気バスの更新を迎えるにあたり、将来新たに導入するバスの選択肢の一つとして実施したものです。詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/20250912>

◆ 福岡県宗像市 自動運転バス実証運行に参画

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社は、福岡県宗像市が主催する自動運転バス実証実験に参画いたしました。宗像市が自動運転レベル4での運行を目指して昨年度に引き続き実施したもので、アイサンテクノロジー株式会社が高精度3次元地図の提供および技術支援を行い、A-Drive株式会社が自動運転の運行統括を担い、民間企業との連携のもとで実証を行いました。

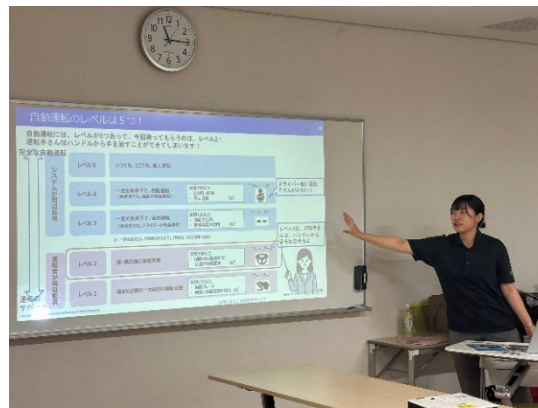
実証は8月下旬から9月下旬にかけて行われ、今年度は夜間運行の検証も行いました。

また、宗像市教育委員会が運営する「むなかた子ども大学」において、市内在住の小学生に向けて自動運転の技術や必要性について分かりやすくご説明したほか、自動運転バスへの乗車体験などに協力いたしました。

自動運転の社会実装に向けて、地域での社会受容性を高めるための活動にも取り組んでまいります。



ティアフォー製「Minibus」を使用



むなかた子ども大学の様子



西新宿・塩尻とも
ティアフォー製「Minibus」を使用



◆【東京都 西新宿地区】自動運転レベル2による路線バスの通年運行を開始

東京都の西新宿地区では、自動運転レベル2による路線バスの実証実験を実施してきましたが、2025年2月22日から通年運行を開始しています。

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社、東京都、京王電鉄グループの協働による定常運行は、土日祝日の午前11時～午後2時台の間、25分間隔で新宿駅西口と東京都庁を結ぶルートで自動運転レベル2にて走行しています。（※新宿駅西口地下ロータリーの工事および車両リニューアルに伴い運休中。11月運行再開予定です。）

定常運行にあたり、当社グループはリアルタイムのシステム監視、技術サポート、データ分析などの役割を担っています。将来的な自動運転レベル4実装に向けたデータやノウハウを蓄積しています。

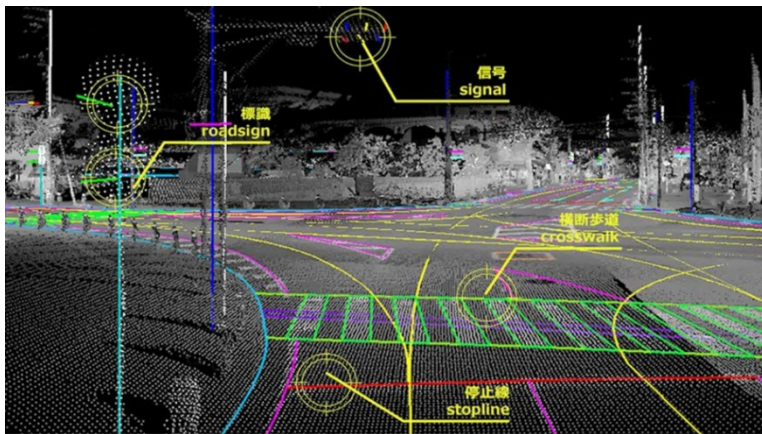
◆【長野県塩尻市】自動運転レベル2の定常運行を開始

2025年1月に自動運転レベル4での実証実験を実施した長野県塩尻市では、5月より、塩尻駅や塩尻市内の商業施設等を結ぶルートにおいて自動運転レベル2で走行する定常運行を開始しました。運行ルートやダイヤの詳細は塩尻市のホームページに掲載されています。

アイサンテクノロジー株式会社およびA-Drive株式会社、長野県塩尻市、一般財団法人塩尻市振興公社、アルピコ交通株式会社、アルピコタクシー株式会社が参画し、地域交通事業者等の地域人材による自動運転サービス提供体制の構築、持続可能なサービス構築に向けた収益性の検証、将来的な自動運転レベル4 運行実施を想定した課題抽出を行っています。

自動運転の実用化は、政府目標として2025年に50か所以上、2027年に100か所以上での社会実装を目指すと言われています。ドライバー不足や地域の公共交通課題を解決する自動運転の本格的な社会実装に向けて、当社では、今後もパートナー企業と協力し、各地の自動運転実証事業へ参画し、社会実装への取り組みを推進してまいります。

◆ 日産自動車の横浜市における自動運転モビリティサービス実証実験に高精度地図を提供



当社は、日産自動車株式会社が2025年度より横浜市内で実施する自動運転モビリティサービス実証実験において、高精度3次元地図を整備・提供いたします。

詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/20250902>

◆ 三菱電機株式会社「xAUTO®」の自動運転車両開発に協力いたしました

当社は、三菱電機株式会社が2025年10月よりリゾート施設向けに提供を開始する自動運転サービス「xAUTO®」において、車両開発に協力いたしました。

「xAUTO®」は、配車から車両運行までを無人化する自動運転サービスであり、三菱電機の運行管制技術や、LiDAR を活用した障害物検知技術を用いることで、リゾート施設内における安全で円滑な移動を実現するものです。

※「xAUTO®」は三菱電機株式会社の登録商標です。

※LiDARとは「Light Detection and Ranging」の略で、レーザー光を利用して対象物までの距離や形状を測定する技術です

詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/20250917>

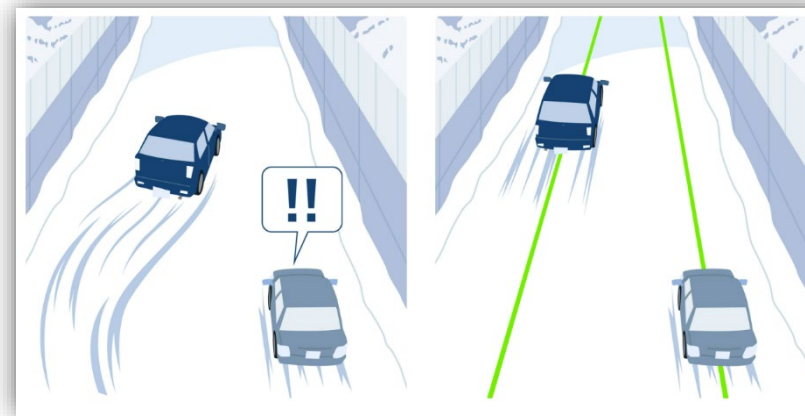
当社は、MMS(モービルマッピングシステム)により計測した点群データと、点群データをもとに車線中心線(区画線を中心)を整備した高精度3次元地図モデル提供を開始します。このモデルは、勾配や曲率など道路構造に関する情報と車線変更可否情報などの属性データを持たせることができ、ドライビングシミュレータ、AI学習、安全運転支援、インフラメンテナンスなど多様な分野での活用を可能にします。

■用途ごとのイメージ図

シミュレータ・AI学習



安全運転支援(レーンキープアシスト)



主な導入企業としては、自動車メーカー、自動車部品メーカー、シミュレータ評価会社、AI開発会社、インフラ管理会社などを想定しております。今後は、ご要望に応じて属性の追加や拡大する用途への対応を進め、社会インフラのデジタルツイン化とモビリティDXの実現を支援してまいります。

詳細はこちら：<https://aisan-corp.com/topics/251024>

当社は、2025年9月に、株式会社マップフォー(以下、マップフォー)の株式を取得し、9月30日に業務提携契約を締結いたしました。

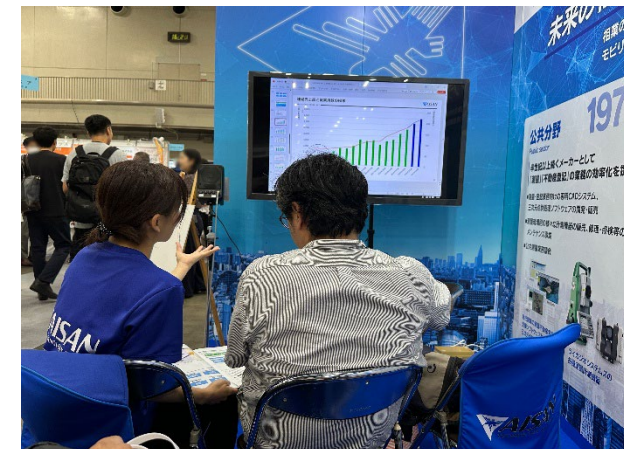
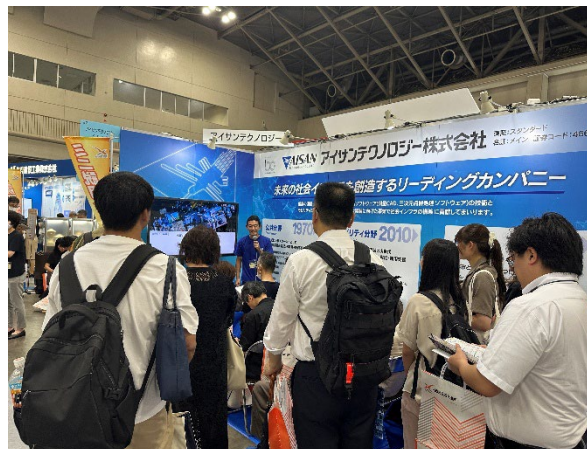


マップフォーは、自動運転や測量、インフラ、ロボティクスなど幅広い分野向けに、AIを活用した三次元空間認識技術「空間知能」を開発・提供している名古屋大学発のスタートアップです。人手不足が深刻化する現代社会において、マップフォーが持つ高精度かつ高速な三次元地図データの作成・後処理技術は、業務の自動化や効率化を可能にし、より安全で持続可能な社会インフラの実現に不可欠なコア技術として、その役割を拡大しています。

本提携により、両社の強みを最大限に活かした研究開発・販売促進の検討を加速させます。これにより、インフラの老朽化対策、人口減少社会における次世代モビリティの推進やスマートシティの実現など、日本社会が直面する喫緊の課題への対応を強力に推進します。

両社の技術的シナジーを通じて、人々の暮らしを支えるインフラやサービスを持続可能な形で提供し続ける社会を実現するとともに、より豊かな未来の創造に貢献してまいります。

◆ 名証IRエキスポ2025に初出展しました



当社は、9月5日(金)～6日(土)に名古屋市中企業振興会館 吹上ホールにて開催された『名証IRエキスポ2025』に出展いたしました。当社の出展は今回が初めてです。当イベントは名古屋証券取引所が主催する日本で最も歴史ある展示会形式のIRイベントで、30回目の開催となった今年は2日間で過去最多の10,000名が来場しました。

当社ブースにも大変多くの方に足をお運びいただきました。2日間で計14回のミニ説明会を開催し、代表取締役の加藤が登壇したプレミアム説明会をはじめ各回とも多くの方にご清聴いただきました。説明会では、事業内容や成長戦略・中期経営計画・業績ハイライト・株主還元の取り組み等について詳しくご紹介しました。また、個別のご質問への対応や意見交換を行う中で、株主・投資家の皆様から貴重なご意見を頂戴でき、大変有意義な時間となりました。

今後も株主・投資家の皆様との対話を大切にしながら、一層の企業価値の向上に努めてまいります。

◆ 11月15日当社主催の会社説明会を開催します

当社は、11月15日(土)に名古屋市内にて個人投資家向けの会社説明会を開催します。
当日は、代表取締役社長の加藤より、2030年に向けた当社のビジョンや今後の経営戦略についてご説明いたします。また、各事業責任者からは、当社事業の強みや競争力を生み出す戦略、そして最新の取り組みについて詳しくご紹介いたします。さらに、経営陣が直接皆様のご質問にお答えする質疑応答セッションも予定しております。

【会社説明会 概要】

日時:2025年11月15日(土)13時30分~16時(受付開始:13時)

場所:リファレンス名古屋栄貸会議室ナディアパーク

(名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル9F)

申込:こちらからお申し込みいただけます ※11月14日(金)締め切り

<https://aisantec.seminarone.com/CorporateBriefing20251115/event>



◆ 名証IRセミナーにて会社説明会を開催します

株式投資ウインターセミナー2025

12月10日(水)13時~15時30分

申し込みは[こちら](#)から

(名古屋証券取引所のサイトにジャンプします)

名古屋証券取引所が主催するIRセミナーへ参加いたします。

当日は、代表取締役社長の加藤より、当社の財務状況や活動成果など、最新の状況をご説明させていただきます。

名証IRセミナーin大阪

3月13日(金)13時30分~16時20分

申し込みは[こちら](#)から

(名古屋証券取引所のサイトにジャンプします)

12月10日(水)の株式投資ウインターセミナーは名古屋市での開催、3月13日(金)の名証IRセミナーは大阪市での開催となります。

お申し込み締め切りは開催日の2週間前となっております。

ご参加には事前申し込みが必要となります。詳細につきましては、名古屋証券取引所のホームページをご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◆ IRサイトリニューアル

当社は、株主や投資家の皆様に当社の事業内容や取り組みについて深く理解していただくため、IRサイトでの積極的な情報発信に注力しております。この度、IRサイトのリニューアルを行いましたのでご案内いたします。



リニューアルページ

代表取締役加藤をはじめ各取締役が担当事業や分野について語るインタビュー記事を掲載いたしました。また、プレスリリースや最新のお知らせなどを時系列でご覧いただける「IRトピックス」ページを開設いたしました。タイムリーかつ分かりやすく当社の最新情報をお届けすることを目的としております。今後も継続的に情報を更新し、透明性の高い情報開示に努めてまいります。IRトピックスはこちら：<https://aisan-corp.com/topics>



会社紹介動画

当社の事業内容や取り組みについてご紹介する動画を制作いたしました。当社の歴史や強み、今後のビジョンなども動画を通じてお伝えしておりますので、ぜひご覧ください。

[動画リンク\(YouTube\)](#)

イニシャルレポートは以下にてご確認いただけます。

Quick | NOMURA
CORPORATE RESEARCH



株主・投資家の皆様への情報発信の強化

2025 AISAN TECHNOLOGY

当社グループは、持続的な成長と企業価値向上には、株主・投資家の皆様との建設的な対話が不可欠であると認識しております。経営方針や成長戦略をより深くご理解いただき、長期的なご関係を築くため、積極的な情報発信に努めてまいります。

つきましては、双方向のコミュニケーションを活性化し、より迅速・正確な情報をお届けするため、以下の情報発信ツールをご用意いたしました。ぜひこの機会にご登録・ご活用いただき、当社の最新動向にご注目ください。

IR情報配信メールマガジン

▼新規登録はこちらをクリック、またはQRコードよりお願いします

IR情報メール配信サービス

決算情報など、IR関連の最新情報をメールでお届けします。

➤ 新規登録はこちら



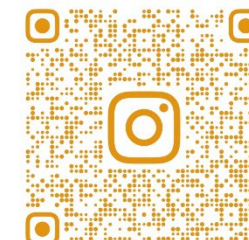
X・Instagramアカウント

X(旧Twitter)

Instagram



@AISAN_CORP



@AISANTEC_IR

■ 株価に対する考え

- 株価は、市場における投資家の皆様の評価によって形成されるものであり、その適正性について当社が直接言及するものではありませんが、企業価値の向上に向けては全力を尽くしてまいります。
- 当社株式は株主数が少ないこともあり、株価が乱高下しやすい環境にあることも考えられますが、投資家の皆様向けのIR活動等を、積極的に実施するなど、個人株主の増加に向けた施策を講じております。

■ 出来高に対する考え

- 現在の当社株式の出来高が低いことは、重要な経営課題の一つとして認識しております。
- 当社グループの売上高、および当社株式の時価総額を考慮すると、当面は個人投資家の皆様へのアプローチが重要であると考えております。
- その一環として、個人投資家比率の高い名古屋証券取引所への重複上場、および自己株式の取得を実施いたしました。
- 会社規模の拡大とあわせて、個人投資家の皆様への情報発信を強化すべく、会社説明会の開催やIRイベントへの積極的な参加等に取り組み、PR強化に努めることで、出来高の拡大を目指してまいります。

■ まとめ

- 当社取締役会では、日々の出来高状況を含め、株価に対して常に注視し、重要な経営課題の一つとして議論を重ねております。
- 一方で、中期経営計画でもお伝えしておりますとおり、公共/モビリティ・DXの両セグメントにおいて、人財を含めた積極的な投資を行うことが、企業規模・収益の拡大に繋がるものと考えておりますが、これらの投資が収益に繋がるには、相応の時間を要するものと判断しております。
- 上記のIR活動の強化は引き続き実施してまいります。現時点では事業投資を優先的に実施する方針とし、その結果として得られる収益を、株主の皆様への配当という形で還元することを目指しております。
- 以上に鑑み、2030年の目指す姿の実現に向け、中期経営計画の達成を通じて企業価値の向上に邁進してまいりますので、株主様、投資家の皆様におかれましては、長期的視点でのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

① 株主還元方針の変更について

当社は、株主様への安定的かつ継続的な配当を基本方針とし、企業競争力と株主価値のさらなる向上を目指しております。

この度、従来の配当政策に代わり、**株主資本配当率(DOE)3%前後を目標**とする新たな配当方針を策定いたしました。
この新方針に基づき、2026年3月期の期末配当は、**従前の配当予想25円より10円増配の35円予想**と変更しました。

② 新株主還元方針

【基本方針】

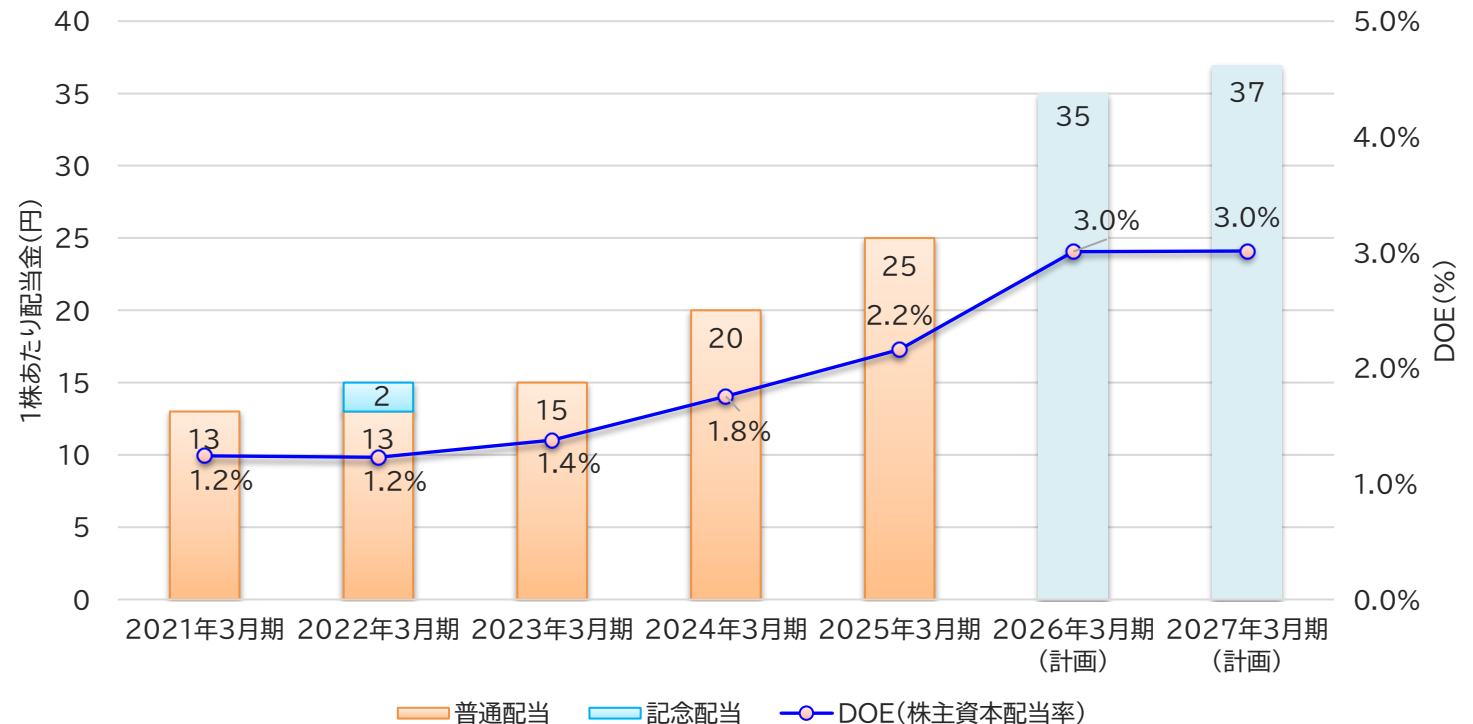
株主の皆様に対し、安定的かつ継続的な配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用を通じて、企業競争力と株主価値の向上を図ることを基本方針とします。

【配当方針】

配当金については、累進的な配当方針として、当面の間、**株主資本配当率(DOE)3%前後**を目標とします。

【2026年3月期 期末配当の計画】

上記の新たな配当方針に基づき、2026年3月期の期末配当は、**1株あたり35円**を計画しております。



企業価値向上の一環として、資本コストや株価を意識した経営が提唱されており、当社グループでも、中長期的な経営の取り組みとして重要視しております。

前事業年度において、当社グループのPBRは1.24倍と、目安の1倍は上回っていましたが、さらなる企業価値向上に向けて、「資本コストや株価を意識した経営」を推進し、現状分析と対応を通じて取り組んでまいります。

取り組みの詳細につきましては、[当社HP](#)をご覧ください。

◆ 資本コスト・株価を意識した経営として中期経営計画で取り組むこと

売上高と営業利益率伸長による収益力の向上

ROE、ROA、ROICの改善によるPBRの向上

広報・IRの強化と株主還元強化によるPERの向上

サステナビリティへの取り組みに関して

2025 AISAN TECHNOLOGY



企業におけるサステナビリティの実現は、2015年に国連サミットで採択されたSDGsの理念浸透とともに、グローバルな注目を集めています。その実現に向けてはCSRを基盤としたESG経営が欠かせません。

以上を受け、サステナビリティの実現に向け、当社グループの社是の下、その取り組みに努める所存です。詳細については、当社HPに記載の「[サステナビリティポリシー](#)」をご確認ください。

知恵

実行

貢献

社是

それは無限の資産

知恵は実行して実を結ぶ

実を結んで社会に貢献

経済開発

- 社会インフラの基礎技術となる測量業務を最大に効率化するソリューションの創造と提案に努めます。
- 来たる自動運転社会に向けた「安心・安全」を担う高精度三次元地図データの生成技術の研磨を進めます。
- 高精度位置情報から地理空間情報までを包括したイノベーションを創造していきます。

社会開発

- 少子高齢化時代に沿った職場環境、人事制度を構築します。
- 最新の測量技術に係る基礎研究を進めます。
- DXやICTに係るソリューションによって、業界の生産性向上を助成します。

環境保護

- カーボンゼロ社会に適応する働き方を追求します。
- 業務に係るDX推進から、ペーパーレス環境を目指します。
- 環境保護への意識浸透を進めます。

現在、労働市場においては、少子高齢化により採用競争が激化するとともに、労働人口も今後さらに減少する傾向にあります。

このような状況下、当社グループでは、採用活動を積極的に行うとともに、限られた人財で最大限の成果を発揮できるよう、生産性の向上に取り組んでおります。企業として持続的な競争優位性を確立するためには、その一環として、DXの活用が重要な役割を果たすものと考えております。

当社では、「[DX戦略2025](#)」に基づき、以下の3つのテーマの実現を目指し、グループ全体で取り組んでまいります。

DX戦略2025におけるテーマ

1. DXを利活用したビジネスをお客様に提供します
2. AI・クラウド基盤を活用し、生産性の向上を図ります
3. デジタル人財の育成を行います

本資料に記載された情報や業績予想等の将来見通しは、資料作成現時点において入手可能な情報及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されております。今後、経営環境の変化等の事由により実際の業績や結果とは異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

アイサンテクノロジー株式会社 経営管理本部

お問い合わせURL : <https://www.aisantec.co.jp/contact/>

※以下QRコードからもお問い合わせフォームにアクセスできます



